



薬剤師職パンフレット

新しい茨城



一緒に地域医療や保健衛生の向上に貢献しましょう！



【問い合わせ先】

業務内容・職場見学等 → 茨城県保健医療部医療局薬務課

TEL : 029-301-3393 FAX : 029-301-3399

E-mail : yakumu2@pref.ibaraki.lg.jp

採用試験関係 → 茨城県人事委員会事務局

TEL : 029-301-5549 FAX : 029-301-5559

E-mail : saiyoushiken@pref.ibaraki.lg.jp

URL : <http://www.pref.ibaraki.jp/jinjiin/saiyojyoho.html>



薬剤師の職能で



浅野主任

<これまでの経歴>

H30 入庁、常総保健所

R1 古河保健所

R4 薬務課

県庁では、様々な職種の方々と一緒に業務ができるので、常に新しい発見があり、広い視野をもつことにもつながります。また、医薬品等の製造所への立入検査では専門知識が必要とされます。その知識を得るための研修や合同調査では、他県の薬剤師職の方と交流を深められることも、行政職の魅力のひとつです！



石川主任

<これまでの経歴>

H27 入庁、県立中央病院

R3 潮来保健所

R5 薬務課

R7 日立保健所

育児休業や時差出勤、テレワーク等の様々な制度により、子育て世帯にとって働きやすい環境が整っています。私もこれらの制度を利用して家族の時間を増やし、仕事と家庭の両立を図っています。また、育児に限らず趣味などの時間を大切にしながら、自分らしい働き方が可能です！

県庁

施策立案や連絡調整で
県民の暮らしを支える

薬務課では、病気の治療に不可欠な医薬品や医療機器等を患者さんが安心して使用できるよう、製造所への立入検査を行い、製造管理や品質管理を確認したり、許認可に関する受付相談業務を行うなど、主として医薬品医療機器等法や薬剤師法に関する仕事をしています。

このほか、毒物及び劇物取締法に関することや、薬剤師の確保に関すること、後発医薬品（ジェネリック）の使用促進、薬物乱用防止活動、献血の推進、安定ヨウ素剤の配布等の業務も行っています。

○県庁内の配属先

保健医療部 薬務課 疾病対策課 健康推進課

生活衛生課 保健政策課

産業戦略部 科学技術振興課

政策企画部 水政課

教育庁 保健体育課

など

保健所

地域に密着して
茨城の衛生管理を支える

保健所の薬剤師は、薬事衛生、食品衛生、環境衛生の業務に携わり、地域住民の方と直接関わるという特徴があります。私は現在、食品衛生業務の担当であり、食品営業に関する許認可業務に加え、飲食店や給食施設など、食中毒防止のための立入検査や地域住民の方への普及啓発などを行っています。

また、保健所には、薬剤師だけでなく獣医師、保健師、管理栄養士などの職員が在籍しており、各専門分野の知識や経験をもつ職員と連携しながら業務を行っています。

○保健所（県内9か所）

中央保健所

ひたちなか保健所

日立保健所

潮来保健所

竜ヶ崎保健所

土浦保健所

つくば保健所

筑西保健所

古河保健所

県民の生活を支える

病院（県内3か所）

最先端の医療で
住民の健康を支える

茨城県には、県立中央病院、県立こころの医療センター、県立医療大学付属病院の3つの病院があり、それぞれ特色のある最先端の医療を提供しています。

薬剤師は、調剤業務や病棟での服薬指導のほか、各病院の特徴に合わせて、抗がん剤の無菌的調製や多職種連携による患者教育なども行っています。

県立中央病院は都道府県がん診療連携拠点病院に指定されており、働きながらがん認定薬剤師の取得ができるほか、専門薬剤師や認定薬剤師などの資格取得を目指すことができます。

○令和7年4月1日現在 専門・認定薬剤師の取得状況
がん専門薬剤師:1名 がん認定薬剤師:5名
外来がん治療認定薬剤師:3名 緩和薬物療法認定薬剤師:1名
抗菌化学療法認定薬剤師:1名 病院薬学認定薬剤師:20名
精神科専門薬剤師:1名 妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師:1名

衛生研究所

確かな検査や調査研究で
住民の安全を守る

衛生研究所では、感染症や食中毒の原因を究明するための検査、医薬品の品質や食品添加物、遺伝子組換え食品、家庭用品等の安全性を確認する試験、水道水中の放射性物質のモニタリングを行っています。その他、調査研究とその成果の公表や感染症情報の収集、解析、提供などを通じて、県民の安全・安心な生活に寄与しています。

○調査研究（一部）
「茨城県における薬剤耐性菌の分子疫学解析」
「原因不明症例における次世代シーケンサーを用いたウイルスの網羅的解析」
「茨城県におけるSFTSウイルス等モニタリング調査」
「健康危機管理体制強化のための植物性自然毒検査法の構築」

薬剤師配置状況（令和7年4月現在） 薬剤師数：126名
うち県庁 29名、病院 44名
出先（保健所、衛生研究所など） 53名

岩田主任



<これまでの経歴>

H23 入庁、水戸保健所

H26 薬務課

H29 県立中央病院

中央病院では、がん診療に多く携わります。専門性が高く、やりがいのある仕事です。産休育休から復帰し、現在子育てをしながら働いていますが、部分休業や育児短時間勤務、子の看護休暇など、働きながらも子育てがしやすい制度が充実しており、復帰後も安心して働くことができます。

奥村技師



<これまでの経歴>

R2 入庁、潮来保健所

R5 衛生研究所

茨城県の薬剤師職は、幅広い業務に従事することができます。また、定期的に薬剤師同士が交流する機会が設けられているため、困った時などに気軽に相談し合える関係性を築けることが魅力の一つです。安心して仕事ができる環境が整っている本県で一緒に働きませんか。

給与・勤務条件

給与：経歴（社会人、大学院等）、勤務課所を考慮のうえ決定されます。また、採用後は勤務成績に応じて年1回の昇給があります。

手当：期末・勤勉手当（ボーナス）は年2回（6月、12月）支給されます。この他、扶養手当、住居手当、通勤手当、時間外勤務手当、特殊勤務手当等が状況に応じて支給されます。

勤務：原則、月曜日～金曜日の8時30分～午後5時15分ですが、時差出勤制度により早出・遅出の計18パターンから選択し、利用することも可能です。

＊仕事の生産性の向上とワーク・ライフ・バランスの推進のため、テレワーク、休憩時間の選択制度などがあります。

休暇：土日祝（原則）、年次休暇（有給）は年間20日（1年目は15日）、特別休暇（夏季、結婚、介護等）があります。仕事と子育ての両立のための支援制度（産休・育休、育児短時間勤務、家族看護休暇等）も充実しており、男女問わず活用されています。

【参考】育休取得率（2024年度実績）女性：97.6% 男性：111.5%

※本県独自に拡充した「育児に係る特別休暇」を含む育児休業等取得率。

配属・異動・昇任

配属・異動

原則、採用から概ね3か所目までは、県庁と出先機関の両方に配属され、行政事務・試験研究・調剤の分野を広く経験します。定期的なヒアリングにより希望を伝えることができます。

昇任

採用時の職歴や学歴などにとらわれず、能力・実績主義の原則に基づき、公平、公正に選考されます。

【昇任モデル】

＊行政職の場合

技師

主任

係長

課長補佐

課長

研修・派遣制度

新規採用職員研修：公務員としての心構えや職務上必要となる基礎知識などを修得するための研修です。

一般研修：地方自治制度等一般的な職務の遂行上必要とされる知識・技能を修得するための研修があります。その他、職員が自ら選択し、特別な知識や技能を修得するためのプログラムもあります。

専門研修：薬事監視員などの専門的な職務の遂行に必要な専門的知識及び技能を修得するために実施しています。

派遣研修：能力向上や意識改革を図るため、民間企業や他自治体等に派遣しています。薬剤師職では、国立感染症研究所への派遣実績があります。

メンター制度：同じ部署の年の近い先輩が新規採用職員のメンターとなり、仕事のやり方やプライベート面も含め、気軽に相談に乗ってくれます。

インターンシップ

主に8月頃にインターンシップを実施しています。薬務課をはじめ、保健所や衛生研究所等の業務内容の説明のほか、各職場体験等を行っています。令和7年度は、7名が参加しました。

受付期間：6月頃人事課ホームページより募集受付

※インターンシップとは別に、随時職場見学を受け付けていますので、表紙【問い合わせ先】の薬務課へお問い合わせください。